

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を持っている。	○	社会関係、人間関係における信頼関係が何かを、理念にしたい。スローガンの意味としてではなく、当事者関係における様々な局面において、各員が尊ぶ行動し得る自負でありたいと思う。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員に配布、周知し、実践をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	特段、取組をしていないが、ケアプランの説明時や、毎月の「田尻の里だより」送付時、利用者個人ならびに全員に対するケア提供上の理念や考え方などを伝えるようにしている。		理念の浸透のための活動は大切であるが、一方的アピールにならないように配慮することも、相手への配慮であろう。折にふれて、共に確認がなされるべきとき、相手を中心に、誤解なき事業所の誠実性をご説明したい。
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的なお付き合いとまではいかないが、交流機会があるようなときは、挨拶や実情について好意的に歓迎するように心がけている。		地域密着事業といっても、双方交流が可能な面が高い現状にはない。大切なことは、地域事情や特性、慣習を重く受け止めて、必要以上の生活侵害が結果的にもたらされないような関わりの範囲内であろう。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	実績としては、中学校生徒さんの職場体験受け入れがある。その他の地域住民との交流は、その機会に恵まれない。	○	幼稚園の運動会見学や、幼稚園児との訪問や受け入れ等計画中である。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に行なえていない。	○	運営推進会議で、区長や民生委員さんに、在宅での認知症介護家族の支援や、福祉・介護保険等の情報提供など役に立ちたい旨をお伝えするも、なかなか反応が得られない。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全体会議(職員会議)の中でその改善について話し合いの場を築くようになってきた。	○	話し合いができて、具体的な改善案まではステップアップできない。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かすべく実施している。	○	問題は、なかなか具体的な意見に恵まれないこと。認知症ケアの特異性のためか、委員の方になれば当惑面も多いように感じている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組めていない。	○	管理者を中心に、計画作成担当者等が地域密着型サービス事業体としての情報共有や交換に資するように、出来れば月次単位で係わってみたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で学び、制度の理解は出来ている。しかし、全職員間で出来ているわけではない。	○	南ユニットでは現在実施されていないが、周知と活動に資する支援をできれば計画したい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等で学ぶ機会を持ってきた。そして職場会議での研修報告を行い、全職員が理念に即したケアの提供ができるよう、意識づけを重ねている。	○	意識が薄れないよう、定期的に話し合い、留意し合ってステップアップを図らなければならないと考える
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実施できていると思う。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表出する機会があっても、反映させる、話し合いの場がない。	○	口頭での苦情でも全て文書化し、定められた方法で全職員が目に来るようにし、検討する場を設けるべき。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者に関する健康状態や生活状況については、定期的に「たより」にて報告するほか、御面会時また、架電にて密に実施している。	○	家族等への報告については、重要なサービス提供の在り方として、そのあり方を深めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表出する機会があっても、具体的に反映させる手立てが構築されず、結果的に我慢されているケースもあると考える。一部のご家族からは明確になさる場合もあり、その対応をご連絡することはあった。	○	家族は、お世話になっているからと、不満を口になさらない面をお持ちではないかと思う。意見箱等の設置や文書での提示など改善の必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的または随時、その機会は設けられていない。相談することはできるが、もっと誰でも職員が意見を言い合える場を作ってほしい。	○	管理者からのアプローチで、いろいろなテーマで発言できる場を設けてほしい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	完全ではないが、可能な限りの対応に努め、その調整に努力している。	○	今後とも継続していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力配慮して対応に努めている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	行われている。		事業所の理念は、利用対象者に限らず、当事者関係全てにわたる指針として、どなたにも適用されなければならないと考え、判断してきた。事業所運営そのものの第一義的理解として考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修参加や、会議の席上、利用者ケアサービス時の個別事案等を通して、機会あるごとに取り組んでいる。	○	さらに資質向上を目指す。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を、計画的に進め、その際、参加職員を次は誰、その次は誰というようにきめて対応している。	○	事業計画として、もっと確立していきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	提携医療機関の森本医院で行われる認知症関係薬剤の学習履修参加をしている。また、外部研修で知り合った他施設職員並びにその利用者の方の親睦訪問の機会もあった。		他の事業所との交流では、一部職員の私的な関係で交流機会、つまり他のスタッフへの事前相談もなく思いつきのようになされることがあった。介護サービス提供での質の向上目的にそって、特定関係上の自己満足的交流の域にとどまらない事業所としての基本的姿勢が曖昧だった。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩用のソファの購入等、各種の相談ごとに応じてもらっている。	○	財政的措置が伴うことについては限界もあるが、職員ストレスの軽減のためのリーダーシップの在り方については、もっと積極的に関わっていただけたらと感じる。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	基本的理解を提示されて、職員も総論的に理解は出来ているが、個々の職員の状況把握については難しい面もあるように思われる。	○	コミュニケーションを保ち、話やすい関係になっていけば、もっとよくなると思う。
	<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分に努めているし、重要なことなので鋭意努力を傾けている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努めているが、双方全てを一時的に共有しあえない面もたぶんあると思う。それゆえに傾聴と受容・共感的配慮にたった努力を傾けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	ケアプラン樹立のためにも、十分に把握できるよう に努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	話し合い、関係作りから慎重に行っている。	○	可能な限り時間をかけながら、本人の思いが事 業所や家族に対して明るい契機となるよう係 わっていくこと。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	人生の先輩として教えていただいたり、相談した りしている。介護しているとは思っていない。一 緒に過ごしていると思っている。	○	大切に考えて、関係継続を行っていく。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも報告・相談し、共に考えて支え合 えるよう配慮している。	○	様々な局面で、その意義や意味の理解を深めて いきたい。例えば、嘘をつかない、甘えない当事 者意識として。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	支援している。		たとえば、お嫁さんを褒めたり、購入された服を 褒めたりして賛同し、共感して、もっとも大切に 考えられていることを尊重してきた。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	そのように努めている。	○	個別に、利用者の餓えた花が咲いたのを見に自 宅を訪ねたり、子供の頃の思い出の場所へ行っ たり、自宅の改築祝いで参加、遠方の娘さん への手紙投函などをしてきた。今後とも支援継 続したい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフ間情報交換を行い、把握に努めている。 又、挨拶習慣を保って、小社会としてのホーム 生活を意識づけている。	○	利用者さんには、差し障りのない範囲で食事介 助にあたっていただいたり、相性の良い利用者 さん同士での外出支援などして、孤立のない生 活を願ってきた。もっと、人間関係での良い関係 づくり、交流の機会を増やしたい。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	他施設へ転所された契約利用者様への面会な ど、ささやかな係わりを保つようにしている。	○	事業所内でのサービス提供に限ることなく、築 かれた人間関係の継続を願うことが、介護では 大切なこと。今後とも大事に考えていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	世間の常識や、スタッフの価値観による思い込みではなく、利用者様固有の生活歴や家族からの情報なども考慮して、その意向を把握するように努めている。	○	個別ケアでは何よりも重要な視点なので、引き続き行っていきたい。その係わりを深めれば深めるほど、把握レベルは正確性を保てるから。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の意見、本人からの聞き取りなどで把握することが多い。会話の中から新しい発見があったりしたら、アセスメントに記録し、スタッフ間での情報共有によって、日々精度を高めるようにしている。	○	記憶障害、判断障害など認知症に固有の障害によって、これまでの暮らしに対する感想を確かめることよりも、今どうなのかの判断と、これからどうなのかの予見や判断が大切。安全監護に努めながら、本人の主体的意向を、今の時点で支援できるように努めたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルチェックや排泄チェック、摂食状況チェックなどによって、心身状態の把握に努めてきた関係で、固有の身体的周期やパターンをつかめている。そして、残存機能維持等、有する能力を活かされるよう、すべてのケア過程で考慮してきた。	○	今後とも、鋭意努力を傾けていく。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族やスタッフ、関係医療機関との間で多角的に意見を取り入れるよう努めている。	○	マンネリになってしまいがちだが、多くの意見を聞き、アイデアやアドバイスなどを取り入れて、よりよい計画が作成できるよう頑張りたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	口頭での変更指示で対応しているが、明文化は更新時にしか行えていない。	○	急な変化にもすぐに対応しなければならないと思う。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施状況記録をし、またモニタリングも行っており、プランの見直しに活かしている。	○	さらに資質向上を目指したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	教養娯楽に資する企画並びに予算措置、各医療機関への付添支援、個人別誕生会の企画、園芸等お楽しみ支援、ボランティアによる演芸慰問受け入れなどで、必要となる経費の全てを事業所にて負担している。	○	本人・ご家族に負担を求めることなく、可能な限りの支援を傾けて、生活のQOLに資していきたい。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアさんが定期的に見えて、演芸等の楽しい交流ができるよう支援努力している。また、図書館での本の借入などもやってきた。	○	可能な限り、他の関係者に迷惑がかからない範囲でのアプローチを目指していきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	介護保険事業者等の関係協調支援の実績はない。しかし、十分に対応しているとはいえないが、例えばイチゴ狩り等の果実狩りや、外食会などで、当該関係者の協力を得て、楽しい支援にかかわったことがある。	○	できる範囲での支援の在り方を忘れないように努力したい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点で、その需要はない。関係機関とはいえ、個人情報に類するケースともなり得るので、特に家族の意向確認など踏まえて、慎重に期したい。	○	地域連携の在り方として、地域密着型サービスである以上、今後の展望から外すことなく努めていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合、支援している。		今後も方針に変わりはない。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係が出来ている。外来受診体制も出来ている。また、アドバイスも受けている。基本的に支援体制は確立している。	○	認知症ケアに係る専門医によるアドバイスは、とすれば素人判断で流れてしまいがちな私どもの状況もあるので、今後ともその関係を保てるよう協力を願っており、報告を密にしてその体制を万全にしていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関(医療連携先)の看護師に気軽に相談ができており、常時万全の体制に近い形で支援が出来ている。	○	提携医療機関は、在宅支援医療機関でもあり、全利用者の日常の健康管理に資する医療活動を願っているし、家族にも了解を得ている。今後とも、医療と介護の連携が重要なので、維持していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	頻回に面会に行き、状況把握に努め、退院後の再受け入れのための支援として、必要な情報の交換や、相談の支援をし、また、本人の心理支援としても重要視している。	○	認知症の進展が、入院期間に激増しないよう、また、記憶障害等を有する利用者さんが、これまでの人間関係に不安を抱かれないようとの目的も有して支援をしている。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部話題になったことはあるが、実質的に行っていない。	○	まだ先のことと思っているが、家族の意向等、現段階から、さりげなく聞き取りを行っておくべきと考えてはいる。ただ、終末期等ケアについては、単独小規模事業所では、気持ちとは別に、サービス提供上の資源限界も現実であるので、上層部での基本方針を待つ。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施していない。	○	とりあえず、スタッフ間での意見集約を図る必要性を感じている。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現時点で当ユニットでの実例は、これまでにない。	○	その状況時、あくまでも、本人の認知症固有の傾向を予見しての、有用な情報の提供並びに指針などを確認し合うことは重要であると認識している。可能な限りの支援方針を有していきたい。
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	留意しているが、耳の遠い利用者様に大きな声で排泄のことを言ったりしていることがある。	○	常にスタッフは、自分の言動を振り返り、是正するよう全員自覚を促していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来ている。耳の聞こえない方には、筆談で、「はい」「いいえ」等、答えやすく分かりやすい方法として、指で示すように工夫している。		たとえば、「どちらが、いいですか？」等、答えやすい質問を工夫している。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全スタッフは、管理的支配をしないよう努めている。利用者の方も、希望を伝えることのできる方は少ないが、その日の状態によって、どのようになさりたいのか推察して、可能な限りの支援をとるようにしている。	○	私たちの力不足で、結果的に希望をかなえてあげられないこともあるので、基本的サービスの在り方として、その尊重姿勢を保つよう努力する。



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	たとえば、髪染めの希望の方は、訪問美容の利用支援に努めている。	○	衣料品店へ買い物に行き、本人の好きな衣類を選んでもらったりしている。今後とも、自分の力が楽しみな機会に恵まれるよう、可能な限り支援していきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味見をしてもらったり、調理方法を教えてもらったりしている。	○	家族や本人からの聞き取りで、好みのメニューを取り入れたりしている。当事業所では、ユニット別に食事メニューを工夫している。利用者の障害形態、嗜好などを反映しての工夫を大切に考えていきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの嗜好形態に合わせての食事提供に努めている。	○	季節の行事や、誕生会等、祝事慶事の節目に、お酒などを提供している。たばこについては、該当者がいないが、ある場合は、時間をかけての禁煙や、過渡的配慮に立った支援を心がけたい。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意表出のない方等については、排泄チェックからのパターンを把握して、個別時間ごとのトイレ誘導を行っている。	○	できるだけ、介助を要しないよう、自立排泄の支援を基本としてのケアを継続している。食事と排泄については、日常生活上の尊厳でもあって、重要ケアの認識を持って当たりたい。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフの都合で決めてしまっていることが多いが、後で入浴したいとの希望など、こまめな対応はしている。	○	個別入浴スタイル(長湯、ぬるめ湯など)を把握の上で、ご希望どうりの入浴提供に努めている。出来れば、管理的支配を回避できるチームケアの練度向上を目指したい。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	健康管理ケア、好精神ケア上必要と判断される安眠や休息支援については、可能な限りの環境整備のもとに、確保支援をしている。また、本人意向の把握にも努めている。	○	
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物や、縫物、書道等、特に外出の好きな方には外出支援など、それぞれの好きな活動を援助している。	○	今少し、皆さんの活動に対する意欲を高め得るような支援の在り方を、チーム全員で係わってしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持なさっている方はいないが、一緒に買い物に行き、支払いをお願いしたりして、ショッピングの実感を味わってもらうように支援している。	○	社会生活をなさっているとの実感の機会をもっと確保して、自らの生活をご自分で感じられるよう、いろいろ企画をしていきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や、畑に行ったり、玄関先で極力外気に触れて頂くなど、それぞれに応じた個別支援としての活動を継続している。	○	希望を確認できないケースが多いが、日々の暮らしの中で囁かれる希望めいたことを叶えてあげられるように、企画してみたい。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御自宅の庭を見に出かけたり、子供の頃の思い出の場所を訪ねたりしての支援を行ってきた。	○	日常的にできることは限られるが、可能な限り、外出企画を立てて、その方の心身両面にわたる充足を提供してあげたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の娘さんとの電話の取次ぎや、お手紙投函など、大切な方々との絆を護ってあげられる支援を行っている。	○	現状では思いつき程度でしかないが、出来れば家族の了解を得て、定期的活動にもっていけたらと思う。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたがお見えになっても、温かく歓迎できる環境であるよう努めている。	○	スタッフによる話題の提供の在り方など、もっと、意欲的な姿勢が必要かもしれない。
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が正しく理解し、実践できているとまでは言えない面もあるが、研修報告等で勉強しており、日々のケアを反省して、常に適切な運営を目指している。	○	特に目に余るというほどのことはないが、気付かずに行ってしまっている精神的拘束を完全に排除できていない。何度もケアの本義に立ったチーム総員の理解に及ぶための話し合いを重ね、確認する必要がある。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解し、実施できている。	○	引き続き行っていきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士、声掛けし合って連携し、実施している。	○	どうしても見守り等の空白が生まれてしまう時があり、油断が生じないよう気を引き締めて取り組んでいく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	爪切りや刃物は、全員お預かりしている。異食行為のある方は、押しピンなどもなくして、安易に口になさるリスクを考慮してきた。	○	残存機能を維持した支援の在り方を大切にしながら、安全監護に努めることができるよう工夫していく。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒リスクのある方、薬を落としたりされる方、誤飲誤嚥などにつながるむせ込み傾向のある方、離設のある方などそれぞれのリスク把握に努めている。	○	さらにマニュアル整備などを通して、適正な対応がとれるようミーティング。また研修機会の確保に努めていく。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	十分に行えていない。	○	定期的に訓練等を行った方がよい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内での訓練は行っている。しかし、地域への働き掛けは広く行っていない。	○	消防計画を作成したので、次年度からは当該要領に従って履行するとともに、地域協力の在り方について関係先へ打診したい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクの説明を行い、行動抑制しないケアの理解を得られるように話し合っている。	○	こまめに報告を行い、状況把握をしていただけるように今後ともあたっていく。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	実施できており、協力医療機関への報告・相談等連携を密にしている。	○	引き続き連携強化にあたっていく。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のお薬手帳での服薬内容等の理解等確認できるようにしており、薬の変更があったら、申し送り後、様子観察に努めて服薬支援をしている。	○	すべての職員が完全に把握できている訳でもない、さらなる努力を傾けて、留意した支援に心がける。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動確保と水分補給、野菜やヨーグルトの摂取等、工夫している。	○	排便(-)3日目で服薬コントロールを行うか、検討している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けて、一部介助も交えながら徹底するよう努めている。また、訪問歯科の定期利用等にて、口腔ケアに資するよう努めてきた。	○	自力での口腔ケアができる方についても、声掛け確認等にて、望ましい清潔保持への支援を行っている。今後ともさらに質の高いケアができるよう努力したい。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量チェックを行い、定期的な水分補給を実施している。また、偏食傾向にある方の支援として、栄養補給ゼリーを添えたり、特別食とすることなく召し上がっていただいている。	○	毎日、気をつけていく。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、実施している。また、99.9%ウイルスを除去する空気清浄機の設置、日常業務としての殺菌消毒実施を職員の手ですすめている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し実施している。食材は地元の新鮮なものを毎日配達してもらっている。	○	食材の衛生管理面の一つとして、例えば賞味期限のチェックを徹底するなどしている。
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、ベンチを置いて座談できる工夫など、生活の潤いが保てるよう配慮してきた。	○	裏の畑へ行くのに、途中階段があつて対応困難な方がいるので、何とか設備改修をと希望している。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、窓の外に蔦を這わせたりして、西日対策をしている。明るく、清潔で、適温適湿管理に努め、レクリエーション活動以外では、静かな時間の確保も大切に考えてきた。	○	予算の範囲内での、アメニティー空間を工夫していきたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セミパブリックと言われるスペースはないが、広いパブリックスペースの中、ソファでウトウトなさったり、仲良しグループでの談笑談話が可能なので、思い思いで過ごされている。	○	空間作りをもっと工夫していければと思う。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施できている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日5回、温度湿度チェックの実施、毎朝の換気実施、その他、強力な殺菌除去や脱臭をする空気清浄機の設置などで、適切な配慮に心がけてきた。今後とも継続していく。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも、歩行器でも自由に行き来できるスペースがある、行動の障害になるようなものは、事前に撤去し、動線上の安全確保にも心がけている。	○	生活リハビリが可能な環境づくりのために、もっと出来る出来ないか考えていきたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示をつけたり、カレンダーや季節感のある飾り付けをしたりしている。	○	生活環境として、不安や困惑混乱が生じないように、固有の障害を認識しての対応がとれるようもっと努力したい。環境づくりには、スタッフとのコミュニケーションが大きいので、メンタルケアの重要性をもっと認識したい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇を自分たちで作り、季節の喜びを感じれる工夫をしている。	○	障害を有していても、ホーム内外を自由に移動できるような環境整備をしていきたい。一部階段(外部)の改修を希望しているが、土工事を要しそうである。予算確保の上、近い将来改善してみたい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 ○ 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない